

日々の暮らしと政治

ながい さちこ
永井 幸子 ●U Aゼンセン 副書記長

昨年9月から政策担当となりました。目下の最大の課題は「労働組合の政策実現と政治活動」について話すことです。基本中の基本ともいえますが、これがまた、とても深くて難しい。

今年は7月に参議院議員選挙が控えていることもあり、話の最初でこう問いかけています。「なぜ労働組合が政治活動をするのか、組合員から聞かれたらどう答えますか。この問いに納得してもらえる答えを一緒に考えたいです。」

労働組合法第2条（労働組合）には、「この法律で労働組合とは、労働者が主体となって自主的に労働条件の維持改善その他経済的地位の向上を図ることを主たる目的として組織する団体又はその連合団体をいう」とあります。労働組合は組合員とその家族のより多くの幸せを実現するため、労働組合独自もしくは会社との交渉だけでは解決できない問題（法律や制度など）を解決するために政策実現・政治活動に取り組みます。私たちの意見の反映をはかるため、私たちの代表である仲間の議員を政治の場に送り出す必要があります。

まず、このように「答え」ますよね。さて、組合員の反応はどうでしょうか…

次にU Aゼンセンの政策実現活動について具体的に見てみましょう。この活動は①加盟組合の声や要望の集約、②政策立案、③政策制度要請、④加盟組合へのフィードバック、そして新たな①声や要望の集約、というサイクルで取り組んでいます。現場の声や要望が政策の出発点であり、政策形成の原動力です。

少しずつでも、「自分事」意識になれるでしょうか。否か…。

最近、ひとつの「答え」に出会いました。それを教えてくれたのは、年始めから日曜夜9時に登場した、官僚で高校教師の御上先生です。彼は、様々な問題に直面する生徒にこう問いかけました。「パーソナル・イズ・ポリティカル、個人的なことは政治的なこと」。もともとはアメリカの学生運動、フェミニズム運動におけるスローガンだったようです。このドラマでは、様々な社会課題が扱われました。学習指導要領、生理の貧困、障がい者家族。これらを抱える生徒たちに、先生はこの言葉を使って、個人が抱える生きづらさは社会とつながっていて政治とつながっている、未来がよいものになるかどうかにつながっている、と伝えました。そして、クラス全員で考えます。

いかがでしょうか。組合員のみなさんは、私たちの「答え」に、よくわかりました、と言ってくれるでしょうか。

自分の目下の「個人的なことは政治的なこと」は愛犬の健康問題と実家問題でしょうか。狂犬病の集団予防接種は平日だし、5月は固定資産税や軽自動車税が馬鹿にならず…。

夏には都議選、そして参議院選挙。「個人的なことの解決にもつながるよう、労働組合は仲間の声を集め、交渉し、政策実現と政治活動を行います。」まずは自分がしっかりそれを心に刻み、これからも話し合っていきたいと思います。